

株式会社ジェイコム東京 東エリア局

放送番組審議会 議事録

令和 2 年度(2020 年度) 株式会社ジェイコム東京 東エリア局放送番組審議会は、2021 年 3 月 26 日
(金) 練馬区立区民・産業プラザ研修室 5 にて開催された。

【放送番組審議会委員】

臼井 素子様

平野 静香様

細野 千恵様

宮澤 誠一様

加藤 政春様

【放送番組審議会会長選任】 会長に宮澤委員を選任した。

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】 進行：宮澤会長

<委員>

今年は緊急事態宣言下でいままでと全く違った状況で思うように取材が出来ない、出来たとしても感染防止を講じる手探りで取材をしている現場の苦労が大変よくわかります。

外出自粛で生活音がなくなり、生活弱者が出てしまうなど生活の様式が変わってしまったのが問題。

そんな状況ではあるが、伝えたいことは専門用語を使わずに優しく分かり易く伝える事の大切さ、また視聴者からのフィードバックを受けながら、次のステップに繋げていく事が重要である。

<委員>

コロナ禍でイベントがことごとく中止になっている中、感度よく新座市の取材していただきありがとうございます。取材方法も時代に即したやり方で取材していることも評価します。

一方で市民からは広報紙での情報発信力だけではなく、紙面と動画でのセットでの拡散を求められている。その動画には手話を付けているが、手話にも色々なタイプがあるため、単純につけただけでは伝わらない。

字幕も分かり易い言葉を選びが重要である。

情報発信は試行錯誤で行っている部分もあるので、引き続き連携のほどよろしくお願いします。

<委員>

コロナ禍で対面取材が制限されている中、市内事業者がいかに地域のために活躍しているか、楽しく暮らして

いるかを、これまで以上にクローズアップされている。

そんな状況のため地域で取材活動している事には感謝している。

<委員>

役員会、定例会の開催が制限され、町会事業は元より、練馬区全体が止まっている。イベントも盆踊りを始め、地区祭が軒並み中止、室内イベントもほぼすべて中止であった。実施したとしても公園・神社を借りて事業をしているが、例年 80 人ぐらいしか来ないイベントもコロナ禍でその倍以上来るケースがあるなど、時には予測を超えることもあった。不測の事態を予測して対応する必要性がある。

オンラインツールは話し合っているときはいいが、終了すると画面からパッと消えてしまうため従来の人と人との触れ合う事がない事が寂しい限りである。

最近は出来ないのではなく、出来る事を考えるように考え方が変わってくるなど、地域を巻き込んで人数制限をかけて実施しようとしている。地域祭は一旦中止にしても、次回やるときは立ち上げに相当苦労するため、どうやったら出来るか？を常に考えている。

<会長>

コロナ禍における公共放送の在り方、新しい展開など変革の時期である。生活様式も変わっても来ているため、放送事業者もそれに沿って新たな事を考えてほしい

<事業者>

コロナ禍の新たな活路としては、オンライン活用は地域に繋がる有効的な手段のひとつである。緊急事態宣言の在宅勤務中でも、いかに情報収集していくかを積極的に電話、メールでアプローチするなど情報収集の幅を広げた。

結果として情報ネットワークの厚みが増してきているため、今後の番組に活かせる。コロナ禍はネガティブではあるが地域の皆様と新しく関わり、深めていく意識は確実に高まったためより地域に根差したチャンネル作りが出来ていくと思われる。

<会長>

事業者がアプローチしなくても、地域の方々が意見（動画投稿）を言える体制が出来事を希望する。その情報を事業者が選択して、話題を提供するフローが出来ることを期待する。

<委員>

コロナ禍で各自治体は飲食業を支援しているが、大企業だけではなく地域で頑張っている人を取り上げてほしい。練馬人図鑑として一部放送しているが、そこではカバーできない地域で活動・還元している人が見える切り口の番組を希望する。

<会長>

3つの行政区で考えると大江戸線延伸を取り上げるのは重要ではないか？

<委員>

行政による大江戸線延伸の啓蒙活動はしているが、延伸予定の沿線以外の地域ではあまり浸透していない。延伸によってもたらす、新駅による波及効果は大きいので日々のニュースの中で取り入れてほしい。番組視聴者を増やして、機運醸成を高める動きをしてほしい。

<事業者>

大江戸線については練馬区 HP に掲載記事のナレーション作成に関わったこともあるため、今後も大江戸線延伸の情報はクローズアップしていきたい。大江戸線に限らず話題性があるものは連携しながら取材しつづける。

<委員>

大江戸線延伸については「ねりまほっとライン」でも特集を組んでいる。新駅にシャトルバスが接続することでエリアはどう変わっていくか？現状と今後についての情報発信をしていく。

<会長>

地元に着、行政の力を借りながら積極的に取材活動をしていく事は重要である。いまが今後どうなっていくか、練馬区民、新座市民、和光市民の立場にたって物事を考えてほしい。

<事業者>

ジェイコム東京全体でも、出来ないことをどうすれば出来るようになるかを常に考えている。コロナ禍で取材規制が入った事で、地域の皆様が困っている事は何か？という発想で始めたことが L 字放送である。即時性の情報を 24 時間提供してきた。

次の段階として、対面取材は出来ないためオンラインで繋げたり、動画を投稿してもらうなどして映像リソースを集めて放送してきた。

つながる NEWS では MC を 2 人にし、その 2 人が番組内で掛け合いをする事で、視聴者により近くなり、分かり易い情報を伝えてきた。その掛け合いは親近感があって好評である。

今後も取材規制がかかっている中で、コロナ禍で何が出来るか？を考えていく。引き続きご意見頂戴したい。

<会長>

今後は視聴者による映像投稿が気軽にできるオピニオンボックスを設置してほしい。

それが新しい生活様式における取材の在り方である。

以上